

げんしりよく

「原子カムラ」では常識のことです！

9月下旬から10月にかけて、連日、新たな癒着事実が報道されてきた、関西電力幹部と高浜原発の地元である福井県高浜町の元助役との金品授受と便宜の問題は、原発がスタートした1950年代から連綿と築き上げられてきた「げんしりよく原子カムラ」では日常茶飯事に行われていることです。

国策として進められてきた原発には、研究開発費をはじめ、多額の税金が注がれ、それに群がる、政治家・官僚・経済界・マスコミ・学者などが仲間うちで税金を循環させ、私腹を肥やしてきました。

原発関連企業 ⇒ 原発推進派の政治家の選挙活動に社員を派遣し、企業ぐるみの選挙を行い、その見返りに政治家は企業に便宜を図る。

原発関連の財団や機構 ⇒ 高級官僚が天下る。

マスコミ ⇒ 大口のスポンサーである大手電力会社に忖度した報道をする。

学者 ⇒ 研究費の提供を受けて原発擁護の論陣を張る。

こういう仕組みが出来上がっています。

また最近では、(輸出計画はコスト高のためすべてとん挫したのですが、) アベノミクスの目玉だった原発輸出のため、輸出先の大使館などに原発企業の社員が大使館員として出向するという、「天上がり」も明らかになっています。



他方、福島原発事故をめぐる旧東電経営陣の業務上過失致死傷罪に関する裁判で、東京地裁は9月19日に「結果の重大性を強調するあまり、あらゆる可能性を考慮して必要な措置を義務付けられれば、法令上は認められた運転が不可能になる」という論理で無罪を言い渡しました。まさに原発の運転ありき、本末転倒の判決です。あの事故がもたらした結果を見れば、そんな危険なものの運転を認める法令こそがおかしいと思いませんか？

げんしりよく
残念ながら、司法にも原子カムラが広がっているようです。

原発反対!

未来にいらない!



Bye-Bye 原発/国分寺の会

関西電力幹部と高浜原発がある地元の元助役との癒着は驚くにあたりません！